

質疑応答	
市民	建物の規模について、41～42ページに2,240㎡と書いてあるが、この建物の大きさで年間どのくらいの来館者を見込んでいるか。また、スタッフの人数はどれくらいか。
文化課長	来館者の想定だが、近隣の市町を見ていく中で、富士市等は令和6年に年間およそ38,000人入館している。三島市は36,000人、焼津市は34,000人なので、富士宮市もできれば30,000人近くを考えおり、20,000人から30,000人を想定している。 スタッフは、市の学芸員が現在6名おり、正規の学芸員以外にも会計年度任用職員が8名いる。ほかに館長、事務、運営の職員が必要になる。 色々な事業を展開していくので、それによって人数をまた考えていく。
市民	来館者というのは年間か？
文化課長	年間。
市民	建設費に約30億円かかるということだが、交付金や補助金、ふるさと納税でどれくらいまかなうのか。 また、101ページの、未利用の公共施設については、富士宮市立病院所有の旧東京電力建物にスペースがあると書いてあるが、これは具体的にどここの場所なのか教えていただきたい。 県の富士山世界遺産センターに外国人を連れて行くとかかなり評判が良い。実際30万人くらい入っている。成功した例だと思うが、日本の地方自治体が運営している博物館で、成功している例は比較的少ない。その中で部長の挨拶で、藤枝市の資料館のことを言われていたが、あそこは鉄道の展示が目玉で、それでお客さんが来ているということもある。県の世界遺産センターに行っても、初めて行く人を連れていくのはいいが、企画展はあるものの、常設展は映像がもう10年変わっていないし、一回行ったらいいになってしまう。富士山世界遺産センターですら行ったことのない市民が多いと思う。博物館への呼び込みや活性化について、お手本にしたい市等の博物館や美術館の例があれば教えて欲しい。
文化課長	交付金等の金額は、国の交付金が二種類あり、地域未来交付金が補助率1/2となっているが、上限が10億円。それ以外に、社会資本整備総合交付金の都市構造再編集集中支援事業がある。中心市街地に色々な都市機能を集中させる立地適正化計画を策定し、コンパクトシティとして中心市街地に都市機能を集中させ、都市機能誘導区域内において該当する施設を建てた場合、補助率1/2という補助金がある。補助率1/2だが、それぞれの交付金で色々な条件があるので、建設費のうちどれくらいが金額がこの交付金に該当するか分からないが、できれば半分を目指し、それに加えてふるさと納税の応援基金を使っていくような形になる。
市民	ふるさと応援基金はどのくらいを見込まれているか。
文化課長	ふるさと応援基金の積立額が24億円ある。ただ、全てが博物館のためのものではなく、富士宮を応援したいということでのいただいた寄付であり、地域経済の活性化等を推進する事業に充てる目的で作られている基金なので、博物館以外の事業にも使うこととなる。 その中で、どれくらいを博物館に充てることができるかというのは、交付金等の兼ね合いで今後決まってくる。

文化課長	旧東電の建物は、市立病院の駐車場の東側にあり、やまと動物病院の隣の敷地で、コロナの注射を打っていた時に会場になっていた。3階建てで、パテオンがあった所の西側になる。市立病院がこの建物を購入して所有しているので、その一部に収蔵物を保管させていただく。 お手本にしたい博物館については、世界遺産センターは、世界遺産富士山のガイダンス施設というような形なので、メインの展示は中々変更がなく、富士宮市で考えている博物館とは少し違う。富士宮市で考えている博物館は、私たちの生活に結びつくようなものを目指している。今、市史編さんということで、先生たちが富士宮市の歴史を色々調査しているが、富士宮駅伝のように長く続いている地方の駅伝は珍しいらしく、例えば富士宮駅伝の歴史を紹介するような企画展示をやった場合に、普段博物館に来ないような人で、駅伝やスポーツが好きな人が来てくれるかもしれない。富士宮の昔からの水を利用した産業ということで、酒、紙製品、発電所等がしずおか遺産になっているが、そういった地域の産業に焦点をあてた展示をやっていくのもいいと思う。 博物館で歴史を学ぶことが趣味の方もいるかもしれないが、そうではない方にも、自分の生活に結びつくような展示をしたい。 先程、地域ごとのパネルを展示するという話が出たが、例えば白糸月間という形で、白糸に特化した展示を企画展示で行い、その間に地域ごとのテーマ展示もできると考えている。
市民	そういう企画をやって成功している博物館の見本は？
文化課長	基本計画の説明をさせていただく中で挙げた事例の昆虫館については、そのような展示をやっているため参考にしたいと思っている。
教育部長	富士山学習の場を博物館としてもいいし、博物館に発表の場を設けることで保護者も来るだろうし、そういった部分でも市民に何度も足を運んでももらいたい。近くに駅前交流センターもある。そこにサークル活動で来た方が気軽に学習するような場になるといいと思う。
市民	博物館は威厳のあるもの。イベントのための軽い博物館はつくりたくないで欲しい。 土地を決めるのが先ではなく、建物や中身が決まってから土地を決めるべきだ。 また、自然公園に大型野外ステージを建てることを検討していると聞いた。壮大なものを作るなら、その脇に博物館をつくれればいい。野外ステージに人が来るから、その人達が博物館に見に来てくれる。 さらに決まったという経緯の説明がない。今日も説明会に来ている市民が少ない。告知して。
文化課長	イメージしていらっしゃる博物館と、市が考える博物館が違うのかなと思う。市は、市民に富士宮の歴史を知ってもらい、親しみを持ってもらい、そして拠点として通ってもらえるような敷居の低い博物館をつくりたいと考えている。白糸自然公園のイベントは2,000人～3,000人の規模になるかと思うが、イベントに来た人に博物館にも来てもらうというのは、市民の方もいるかもしれないが市外の方も多いと思われる。基本的に市は、多くの市民に博物館に来て歴史文化を知って欲しいと考えており、そのためには、交通の便や都市機能がそろっている中心市街地で博物館をつくりたいと考えている。
市民	歴史文化は、箱の中で説明がつくものではなくて子供の頃から肌で感じて自然と分かってくるものだ。
文化課長	育ってきた中で分かる歴史文化もあるが、例えばなぜこの祭りをやっているか等の祭りの歴史は、祭りに参加しているだけでは分からないところもある。そのようなことを知ってもらう展示をする。
市民	歴史文化というなら厚みのあるものにして欲しい。市民皆が喜ぶものにして欲しい。
文化課長	そうする。